新製品いち早く体験

2026年春文紙フェア

マグエックス グランプリは「トジティ」

ステーショナリー情報委員会（口分田尚志代表幹事）は、1月7、8日に東京・柳橋の東京文具共和会館（共和フォーラム）で、文具メーカー合同見本市「第41回2026年新春文紙フェア」を開催、滞留時間が延び密度の高い商談が行われたが、総来場者数は421人と前年（500人）を下回った。

初日の午後1時から開会式が行われ、口分田代表幹事が「丙午の年は大きなエネルギーを良い方向に活かし、新しい発展の芽を生み出す機会のある年といわれている。文具業界は『単なる商品』を売る時代から『体験と価値』を売る時代へと移行し、デジタルが普及した今だからこそ、手書きの温もりや五感を刺激するものや、『効率』の先にある『創造性』を引き出す商品への価値がさらに求められる。新春文紙フェアは年間テーマ『Something New！新しさの創造』。文具がつなぐ、人とアイデア』のもと、37社が2026年のトレンドを象徴する商品や新企画を携え、提案を行う。来場者には商品を体験してもらい、じっくり商談してほしい。第32回を迎えた『文紙フェア大賞』は、前回までの2部門制を刷新、最も話題性やデザイン性のある商品を『スタイル&トレンド賞』、最も実用的で使いやすさを重視した商品を『プロダクティビティ・ギア賞』、最も環境配慮やサスティビリティを重視した商品を『エコ・フレンドリー賞』の各賞を設けて、すべての項目で最も投票数の多かった商品を『文紙フェア大賞グランプリ』として表彰を行う。全55アイテムのエントリー商品を1階に展示している。限られた時間となるが、活発なフェアとなるよう協力を願う」と挨拶。

開会式で挨拶する口分田代表幹事（中央）

続いて、初出展のセキセイ・西川雅夫会長の挨拶、夏の文紙フェアは会場を都立産業貿易センター浜松町館に移し、「TOKYO STATIONERY WEEK」（TSW）に参画することを伝えた後、口分田代表幹事の音頭による一本締めで開場した。

会場には新規1社（セキセイ）を加えた37社が2フロアに出展、春の需要期に向けた新製品をいち早く紹介、商品やサービスを来場客にアピールした。

出展社と来場者の商談の接点を創出する施策として実施している恒例の「スタンプラリー」は参加者の75％がフルスタンプを達成、会場内の回遊を促進した。

なお、「文紙フェア大賞」の結果は、グランプリにマグエックスの「超強力マグネットフック　トジティ」が受賞。総合2位には東京画鋲製作所の「消防ホースペンケース」、3位には馬印の「アップサイクル　ホイッスル」が入賞した。

「スタイル&トレンド賞」並びに「プロダクティビティ・ギア賞」は、グランプリに輝いたマグエックスの「超強力マグエットフック　トジティ」がW受賞。

「エコ・フレンドリー賞」は、東京画鋲製作所の「消防ホースペンケース」が受賞した。

「第42回2026年夏の文紙フェア」は7月7、8日に都立産業貿易センター浜松町館で開催。TSW（東京文具週間）の一環として、他の同時開催イベントともタイアップし、魅力的なフェアとなるよう準備を進める。

文具検定の模擬試験

WEBで3月31日まで実施

有限会社文房具屋さんドットコム（https://www.bungukentei.jp）が運営し、文具専門紙誌3社（紙製品新聞社、全通、日本文具新聞社）が共催する「文具知識能力検定（略称＝文具検定）」の「Web文具検定第37回模擬試験」が、2月1日（日）～3月31日（火）まで実施している。

文具検定とは、文具をもっと知り、もっと楽しむための知識を問う試験。文具にまつわる一般編問題からメーカー別の企業篇の問題まで、幅広い出題内容とし、業界に携わる人や文具好きな人が深く理解できる内容としている。4択形式の検定で文具初心者も気軽に挑戦できる。

模擬試験の出題内容は、一般編問題（規格・呼称、製品知識、一般知識等）と、企業編問題（各メーカー別）で構成し、全部で約400問。

受験方法は、ニックネーム登録での受験と、実名登録での全国ランキング挑戦の2コースがあり、全国ランキングに挑戦すると全国順位がわかる。本試験は4月に実施を予定している。

力結集して良き年に

名古屋業界70人出席して新年祝う

【メイブン発】名古屋業界の吉例による文具紙製品関連6団体（中部文具工業協同組合、名古屋紙製品工業協同組合、愛知文紙事務器卸協同組合、名古屋文具事務用品協同組合、愛知県製本工業組合、トムソン工業協同組合）合同の新年賀詞交歓会は、1月6日午後6時から中区錦の「名古屋ガーデンパレス」を会場に、関係者総勢70人が出席して盛大に開催し新年を祝った。

6団体合同による名古屋業界の賀詞交歓会

中部文具工業協同組合・加藤泰稔副理事長の司会で進め、国歌斉唱に続き当番団体を代表して名古屋紙製品工業協同組合・棚橋泰仁理事長が「本年もこのように盛大に開催でき御礼申し上げる。近年、デジタル化、DXの波が押し寄せ、私ども紙製品、文具業界も厳しい状況となっている。そのような環境下で、昨年はランサムウェアによるサイバーテロがあり、企業活動やインフラに多大な被害と混乱をもたらす事件があった。これらの状況下で紙の媒体、文具製品の信頼性、安全性が見直されることにもなったと言える。更に最近ではAIの進展が著しく、情報の捉え方、働き方の変化にも同様に紙・文具が見直されていると感じている。政権も交代し、社会的政策や産業支援等が大きく変化すると思われる。本年もご参集の皆様の力を結集して良き年としたい」と挨拶した。

愛知卸・青山英生理事長の乾杯で開宴し、和やかに歓談を進めた。

大詰めには、中文・舟橋正剛理事長の閉会挨拶と同氏主唱の手締めを唱和してお開きとした。

流通センターが新年互礼会開催

協同組合大阪紙文具流通センター（堀隆理事長）の令和8年新年互礼会は、1月6日午後3時半から東大阪市長田の組合中央会館2階ホールで開催、組合員や来賓など76人が出席して新年を祝った。

当日は宮崎博也事務局長が司会して進め、開宴に先立ち堀理事長が「組合業務は順調に推移している。国内では与党連立の枠組みが変わり、日本初の女性総理として高市早苗首相が誕生した。関西では4月に開幕した大阪・関西万博は2900万人が来場するなど盛況裏のうちに閉幕し、3兆円を超える経済効果を生み出し、大阪の街に活気を生み出した。当組合においては、団地内の環境整備に努め、納涼ビアパーティなどの福利厚生事業では多数の参加を得た。また、セミナーなど共同研修事業も好評で、来年度も引き続き実施する予定で従業員も積極的に参加してほしい。当業界でもDX化の加速や環境意識の変化、深刻な人出不足など課題が山積している。今年は団地開設から55年目を迎え、建物諸設備の老朽化対する対応も待ったなしの状況で、組合としては組合と組合員間の情報交換、共有の場を積極的に設け、成長するための場として課題解決に取り組んでいきたい。そして、従業員の皆さんがこの団地で働くことに喜びと誇りを持ち、安心して働けるような活気にあふれる団地になるよう、組合としても尽力していきたい。今年の干支の〝丙午〟は、火の性質を持っていることから、情熱をもって新たな挑戦に取り組むにふさわしい年となりそうで、確かな未来に向けた〝変革の年〟にしたいと思う」と年頭に当たって所信を述べた。

商工中金東大阪支店・小島栄二支店長の乾杯挨拶で開宴し、熊田和央副理事長の中締めで閉じた。

年頭挨拶する堀理事長

KOKUYO

貼るって、こんなに変われる。
GLOO